

## 眼の手術から半年余り

昨年 11 月 20 日に名古屋市大病院に入院し、24 日に手術した。写真は忘れもしない南病棟 10 階。黄色ライン先が 1058 病室だ。病名は右眼「黄斑円孔」である。手術で「エア」を入れたので、1 週間近く「うつむき」姿勢を続けた。

朝早く、この黄色ラインを「うつむき」で何回も歩いたものだ。途中からは「秘密のルート」も。

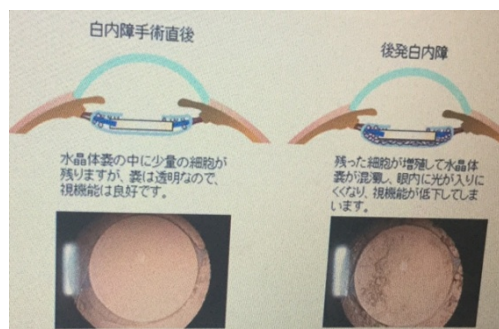
いま写真を見ると、懐かしのラインだ。すこし早めではあったが、12 月 3 日に退院した。5 日名市大「人間文化研究所シンポジウム」で報告を予定していたからだ。



それから半年余りが過ぎた。主治医の小椋先生や看護師さんらのおかげで、術後は順調のようであったが、どうも視力の回復が思わしくない。時間が経てば、視力もだんだん回復してくると思っていた。だが、ここ 2 ヶ月近く、近くも見えにくくなった。本を読むのも苦勞した。今度は右ではなく、どうも左のほうが見えにくい。右は「黄斑円孔」の前には「黄斑上膜」の手術をしており、前から視力はかなり悪い。左でなんとか全体の視力を保っていた。

左眼の手術かと心配しながら、「定期診察」を受けた。緊張しながら診察結果を聞くと、「後発白内障」とのこと。診察後、ただちに手術を行うことになった。想定外だが、しかたがない。手術は痛みもなく、数分で終わったが、説明書には次のように書かれていた。

「白内障手術の後、眼内レンズの後ろになる水晶体嚢（水晶体を包んでいたふくろ）が混濁し、視力障害の原因になっています。---- YAG という特殊なレーザー光線で、水晶体嚢に切開をいれ、眼の奥に光が入りやすくすることで、視力の向上が期待できます。」



写真は「日本白内障学会」サイトから。帰宅してから、どうも気になり「後発白内障」につ

いて調べた。白内障の術後 5 年で約 20%の患者が発症するという。私も、その一人だった。かなり前に、白内障手術を職場近くのクリニックで両眼したことがある。今回は左が「後発白内障」となり、視力がかなり低下したわけだ。レーザー手術により、とにかく視力低下がおさまり、ほっとしている。ここ数年、眼の「病」に悩まされているが、まだまだ安心できない。

(2016 年 6 月 11 日)